

3. 有明海粘質状浮遊物原因究明・予測手法開発

山砥稔文・平江 想・高見生雄

有明海では、平成15年と16年の春季（4月～5月）に粘質状浮遊物が大量に出現し、小型底びき網や刺網などに漁業被害をもたらした。そこで、この粘質状浮遊物の発生原因を明らかにするための調査を実施した。

方 法

粘質状浮遊物は、植物プランクトン由来のものが発生原因と推察され、その出現に絞り、粘質状浮遊物の発生との関係を把握するため下記のとおり調査を実施した。

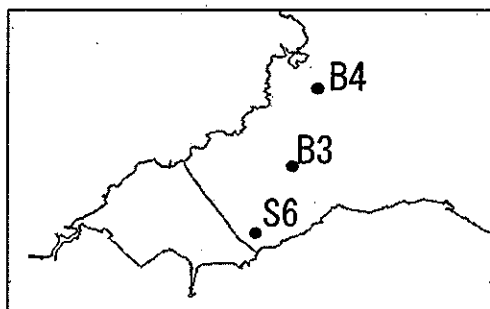


図1 春、秋季における浮遊物調査定点位置図

図1に示した諫早湾内3定点（S6, B3, B4：九州農政局北部九州土地改良調査管理事務所所有の橋）において、2～5月および10～11月（概ね隔週1回）に定期観測を実施した。

定期観測時に1m層と底層（海底から1m層）から100mLを採水し、顕微鏡観察により植物プランクトン組成を調べた。

結 果

粘質状浮遊物発生状況は、諫早湾において、春季は、2月中旬に*Thalassiosira* 属、3月中旬と4月中旬に*Eucampia zo diacus*, 秋季は、10月下旬に*Skeletonema* 属の増殖に伴い粒状の粘質状浮遊物の発生が確認されたが、漁具への顕著な付着は確認されなかった。

ま と め

諫早湾では、春季は2月中旬、3月中旬、4月中旬、秋季は10月中旬に、いずれも植物プランクトンの珪藻類の増殖に伴い粘質状浮遊物の発生が確認された。

（担当：山砥）